

人材育成の目的

学士課程教育で培われた基礎薬科学、生命科学、医療系薬学及び衛生・社会系薬学の素養を基盤にして、各専門分野で自立し、かつ指導性を発揮できる、いわゆる高度な薬の専門家及び生命科学者の育成を目指す。特に、創薬・生命薬科学専攻博士前期課程では、医薬品創製の現場で主導的役割を果たすゲノム創薬と基盤的創薬の研究者・技術者の育成、先端的な生命科学分野及び環境科学分野の研究者・技術者の育成を目標とする。

卒業認定・学位授与の方針 DP（ディプロマ・ポリシー）

①学位授与の要件

当該課程の標準修業年限 2 年以上在学し、所定の単位（必修全コース共通から 22 単位、選択全コース共通及びコース科目から 8 単位、合計 30 単位以上）を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験（口頭試問など）に合格すること。

ただし、在学期間については、優れた研究業績をあげた者は、当該課程に 1 年以上在学すれば足りるものとする。（修業年限特例の適用）

学位審査は、主査 1 名、副査 2 名以上により構成される研究指導・審査委員会により行われ、その報告及び最終試験結果を受けて教育部教授会によって最終判定される。

②修得すべき知識・能力

1. 高度な専門的知識・技能及び研究力

- ・ 社会で薬の専門家の高度専門職業人として即戦力となりうる特定分野の知識・技能を有している。
- ・ 自らの研究の成果と意義を科学的かつ論理的に発表・議論できる。

2. 学際的領域を理解できる深奥な教養力

- ・ 各コース特定の専門分野に加えて、専門分野にとらわれない分野横断的な知識を有している。
- ・ 倫理観と環境マネジメント能力を身に付けている。

3. グローバルな視野と行動力

- ・ 国際社会に積極的に貢献できる研究を実施できる。
- ・ 英語での基礎的なプレゼンテーション・コミュニケーション・論文作成ができる。

4. 地域社会を牽引するリーダー力

- ・ 創薬科学や生命科学を通して、地域に積極的に貢献できる研究を立案できる。
- ・ 地域の問題を提起し、解決する基礎的能力を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針 CP（カリキュラム・ポリシー）

①全体の方針

社会が求める創薬・生命科学のスペシャリストを養成するため、4コースを導入し、各専門分野に特化した知識・技能に関連した科目を重視したカリキュラムを提供する。4コースの特徴や目指す人材像は、次のとおりである。

- ・ 医薬品の体内動態評価、製剤化及び薬物送達を行うドラッグデリバリーコース（医療系創薬研究者の養成）
- ・ 医薬品の探索を行うバイオフィーマコース（生物系創薬研究者の養成）
- ・ 医薬品シーズを天然資源等から発見し、医薬品の設計・合成を行うメディシナルケミストリーコース（化学系創薬研究者の養成）
- ・ 病態遺伝学、発生学、循環代謝学などの生命科学を専門基盤とし、次世代創薬を目指すライフサイエンスコース（生命科学研究者の養成）

②教育課程編成の方針（「修得すべき知識・能力」への対応）

1. 「高度な専門的知識・技能及び研究力」

独創的な発想力、探究心、創薬マインドを育みながら、物理系薬学、化学系薬学、生物系薬学、生命科学を中心とした基盤的学問における知識・技能を基礎として、自らの専門領域において卓越した研究能力を発揮できる人材の養成をするため、4コース制の下、各専門分野に特化した知識・技能に関連する科目を多く取り入れたカリキュラムを提供する。

2. 「学際的領域を理解できる深奥な教養力」

特定の専門領域だけでなく、より俯瞰的かつ実践的な人材や国際化に対応できる人材を養成するため、各コースを担当する教員が連携して演習形式の授業を行うとともに、多様なシンポジウム・講演会・セミナーに参加し、自分の専門分野以外の研究動向についての知識を増やし、討論を通して理解を深めるための授業科目を配置する。

3. 「グローバルな視野と行動力」

優れた倫理観と環境マネジメント能力をもち、国際社会に積極的に貢献できる行動力を養成するために、英語でのプレゼンテーションや論文作成のための演習などの授業科目を導入する。

4. 「地域社会を牽引するリーダー力」

優れた倫理観と環境マネジメント能力をもち、地域社会に積極的に貢献できる行動力を養成するために、生命倫理学などの授業科目を導入する。

③教育課程における教育・学習方法に関する方針

講義においては、基本的知識を丁寧に説明し、発展的な内容については研究の背景を説明する。さらに、各学生が所属するコースの講義に加え、それぞれの興味に基づき他コースの授業を選択科目として受講することにより、知的好奇心と学修意欲を高める。講義を聴き、その関連する内容についての文献等を読み自ら学ぶことで基礎的知識・専門的知識・基礎的な方法論を修得することが可能となる。「薬学演習」では自ら文献を探し理解しその内容を発表すること、或いは、自らの研究成果について発表することで知識を活用する研究を遂行する基礎となる思考力を涵養する。「特別実験Ⅰ」では研究手法などについて指導を受け自ら実践することで、研究を遂行する能力を修得することが可能となる。

④学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価する。また、学位論文については、学位論文審査基準を明示し、その基準に基づき適切に評価する。

全ての開講科目について、それぞれの学修目標の到達度を適正に評価するための方法及び基準を定め、これをシラバスに明記して学生に周知する。学修成果は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から「評価方法・基準」により評価する。

入学者受入れの方針 AP (アドミッション・ポリシー)

◆求める学生像

本教育部は「創薬・生命薬科学専攻」及び「医療薬学専攻」からなり、学士課程教育で培われた基礎薬科学、生命科学、医療系薬学及び衛生・社会系薬学の素養を基盤にして、各専門分野で自立し、かつ指導性を発揮できる、いわゆる高度な薬の専門家及び生命科学者の育成を目指している。本教育部「創薬・生命薬科学専攻」では、医薬品創製の現場で主導的役割を果たすゲノム創薬と基盤的創薬の研究者・技術者の育成、先端的な生命科学分野及び環境科学分野の研究者・技術者の育成を目標としている。

薬学教育部の理念・ミッションに沿った教育・研究を行い、各分野における基盤的研究及び最先端の研究を通して薬学及び生命科学の将来を担う高資質な人材を育成するため、本教育部では次のような学生を求める。

1. 深い人間愛と国際性を涵養できる学生
2. 科学的探求心や知的好奇心が旺盛な学生
3. 多様な社会のニーズに即応できる、柔軟性豊かな学生
4. 自らの将来に対するビジョンと信念を有する学生
5. 問題提起能力及び問題解決能力に優れる学生

◆入学者選抜の基本方針

入学者選抜においては、以下のような評価方法を用いている。各試験における評価方法等の詳細については、募集要項に明記している。

- ・ 専門知識を評価するための筆記試験
- ・ 英語能力を評価するための筆記試験
- ・ 面接

人材育成の目的

学士課程教育で培われた基礎薬科学、生命科学、医療系薬学及び衛生・社会系薬学の素養を基盤にして、各専門分野で自立し、かつ指導性を発揮できる、いわゆる高度な薬の専門家及び生命科学者の育成を目指す。特に、創薬・生命薬科学専攻博士後期課程では、医薬品創製の現場で主導的役割を果たすゲノム創薬と基盤的創薬の研究者・技術者の育成、先端的な生命科学分野及び環境科学分野の研究者・技術者の育成を目標とする。

卒業認定・学位授与の方針 DP (ディプロマ・ポリシー)

①学位授与の要件

当該課程の標準修業年限 3 年以上在学し、所定の単位（必修全コース共通から 14 単位、必修所属するコースから 2 単位、合計 16 単位以上）を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験（口頭試問など）に合格すること。

ただし、在学期間については、優れた研究業績をあげた者は、当該課程に 1 年以上在学すれば足りるものとする。（修業年限特例の適用）

学位審査は、主査 1 名、副査 2 名以上により構成される研究指導・審査委員会により行われ、その報告及び最終試験の結果を受けて薬学教育部教授会での審議によって最終判定される。

②修得すべき知識・能力

1. 高度な専門的知識・技能及び研究力

- ・ 社会で薬の専門家の高度専門職業人として即戦力となりうる特定分野の深い知識・技能を有している。
- ・ 研究者として自立して活動し、また高度な専門業務に従事するために必要な能力とその基盤となる学識を有している。
- ・ 自らの研究の成果と意義を国際的な水準で発表・議論できる。

2. 学際的領域を理解できる深奥な教養力

- ・ 幅広い知識・技能を持ち、かつ専門分野にとらわれない高度な知識を持っている。
- ・ 特定の専門領域だけでなく、より俯瞰的かつ実践的な考え方ができる。
- ・ 高い倫理観と優れた環境マネジメント能力を身に付けている。

3. グローバルな視野と行動力

- ・ 国際社会に積極的に貢献できる研究を自ら発案し、実施できる。
- ・ 国際学会・国際インターンシップ・海外留学を通して、国際的な活動力を身に付けている。
- ・ 英語での優れたプレゼンテーション・コミュニケーション・論文作成ができる。

4. 地域社会を牽引するリーダー力

- ・ 創薬科学や生命科学を通して、地域社会に積極的に貢献できる研究を立案・実施できる。
- ・ 地域の問題を提起し、解決する能力を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針 CP (カリキュラム・ポリシー)

①全体の方針

社会が求める創薬及び生命科学の先導的高度専門職業人（研究者・技術者）のエキスパートを養成するため、4コース制（ドラッグデリバリー、バイオフィーマ、メディシナルケミストリー、ライフサイエンス）を導入し、創薬・生命科学に関する高度な専門的知識・能力に加えて、これらを総合的に身に付けさせるためのカリキュラムを実施する。すなわち、専門分野における自立した研究者としての能力を養成する特別実験科目・コース科目（課題実習）、社会が求めるグローバルリーダーとしての人材を養成する研究型インターンシップ科目、より俯瞰的かつ実践的な人材や国際化に対応できる人材を養成する演習科目などを提供する。

②教育課程編成の方針（「修得すべき知識・能力」への対応）

1. 「高度な専門的知識・技能及び研究力」

創薬科学・生命科学領域の各専門分野における先端研究を自ら推進できる高度専門職業人（研究者・技術者）を養成するため、専門分野における自立した研究エキスパートとしての能力を養成する特別実験科目や課題実習科目に加えて、社会が求めるグローバルリーダーとしての人材養成を目的に、研究型インターンシップ科目などのカリキュラムを提供する。

2. 「学際的領域を理解できる深奥な教養力」

特定の専門領域だけでなく、より俯瞰的かつ実践的な人材や国際化に対応できる人材を養成するため、各コースを担当する教員が連携して演習形式の授業を行うとともに、多様なシンポジウム・講演会・セミナーに参加し、自分の専門分野以外の研究動向についての知識を増やし、討論を通して理解を深めるための授業科目を配置する。

3. 「グローバルな視野と行動力」

優れた倫理観と環境マネジメント能力をもち、国際社会に積極的に貢献できる行動力を養成するために、英語でのプレゼンテーションや論文作成のための演習などの授業科目を導入する。

4. 「地域社会を牽引するリーダー力」

優れた倫理観と環境マネジメント能力をもち、地域社会に積極的に貢献できる行動力を養成するために、生命倫理学などの授業科目を導入する。

③教育課程における教育・学習方法に関する方針

講義・演習においては、基本的知識を丁寧に説明し、発展的な内容については研究の背景を説明することで知的好奇心と学修意欲を高める。さらに、関連する内容についての文献等を読み自ら学ぶことで基礎的知識・専門的知識・基礎的な方法論を修得することが可能となる。各コースの「課題実習」では研究費申請書の書き方、博士人材のキャリアパス、科学英語論文の書き方を学修し議論することで社会が求めるグローバルリーダーとしての能力を涵養する。「特別実験 II」では研究を自ら実践することで、研究を遂行する能力を修得することが可能となる。

④学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価する。また、学位論文については、学位論文審査基準を明示し、その基準に基づき適切に評価する。

全ての開講科目について、それぞれの学修目標の到達度を適正に評価するための方法及び基準を定め、これをシラバスに明記して学生に周知する。学修成果は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から「評

価方法・基準」により評価する。

入学者受入れの方針 AP（アドミッション・ポリシー）

◆求める学生像

本教育部は「創薬・生命薬科学専攻」及び「医療薬学専攻」からなり、学士課程教育で培われた基礎薬科学、生命科学、医療系薬学及び衛生・社会系薬学の素養を基盤にして、各専門分野で自立し、かつ指導性を発揮できる、いわゆる高度な薬の専門家及び生命科学者の育成を目指している。本教育部「創薬・生命薬科学専攻」では、医薬品創製の現場で主導的役割を果たすゲノム創薬と基盤的創薬の研究者・技術者の育成、先端的な生命科学分野及び環境科学分野の研究者・技術者の育成を目標としている。

薬学教育部の理念・ミッションに沿った教育・研究を行い、各分野における基盤的研究及び最先端の研究を通して薬学及び生命科学の将来を担う高資質な人材を育成するため、本専攻では次のような学生を求める。

1. 深い人間愛と国際性を涵養できる学生
2. 科学的探求心や知的好奇心が旺盛な学生
3. 多様な社会のニーズに即応できる、柔軟性豊かな学生
4. 自らの将来に対するビジョンと信念を有する学生
5. 問題提起能力及び問題解決能力に優れる学生
6. 創薬科学・生命科学やその基礎となる科学に強い関心を持ち、医薬品の研究者・開発者、生命科学研究者あるいは教育者など、創薬科学や生命科学を通して社会に貢献しようという意欲を有する学生

◆入学者選抜の基本方針

入学者選抜においては、以下のような評価方法を用いている。各試験における評価方法等の詳細については、募集要項に明記している。

7. 専門知識を評価するための口述試験
8. 英語能力を評価するための筆記試験
9. 面接

人材育成の目的

学士課程教育で培われた基礎薬科学、生命科学、医療系薬学及び衛生・社会系薬学の素養を基盤にして、各専門分野で自立し、かつ指導性を発揮できる、いわゆる高度な薬の専門家及び生命科学者の育成を目指す。医療薬学専攻では、臨床の現場で薬の本質を深く理解した医療の担い手として医薬品の適正使用に貢献できる高度な指導的臨床薬剤師の育成、疾病の予防及び治療に貢献する臨床研究者の育成を目標とする。

卒業認定・学位授与の方針 DP（ディプロマ・ポリシー）

①学位授与の要件

当該課程の標準修業年限4年以上在学し、所定の単位（臨床薬学コースについては、共通科目から必修18単位、選択必修2単位以上、コース科目1から選択必修8単位以上、コース科目2から必修2単位、選択必修2単位以上とし、医療薬学コースについては、共通科目から必修18単位、選択必修6単位以上、コース科目から必修4単位、選択必修4単位以上の各コース合計32単位以上）を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験（口頭試問など）に合格すること。

ただし、在学期間については、優れた研究業績をあげた者は、当該課程に3年以上在学すれば足りるものとする。（修業年限特例の適用）

学位審査は、主査1名、副査2名以上により構成される研究指導・審査委員会により行われ、その報告ならびに最終試験の結果を受けて薬学教育部教授会での審議によって最終判定される。

②修得すべき知識・能力

1. 高度な専門的知識・技能及び研究力

- ・ 研究者として自立して活動し、専門業務に従事するために必要な高度な知識を有している。
- ・ 高度な指導的臨床薬剤師及び臨床研究者となりうる優れた技能及び研究力を有している。

2. 学際的領域を理解できる深奥な教養力

- ・ 専門分野にとらわれない分野横断的な高度な知識・技能を有している。
- ・ 臨床及び企業等の現場での実践的能力を身に付けている。

3. グローバルな視野と行動力

- ・ 自らの研究の成果と意義を国際的な水準で議論できる。
- ・ 自らが国際共同研究の展開に寄与できる。

4. 地域社会を牽引するリーダー力

- ・ 高い倫理性と優れた倫理観と環境マネジメント能力をもち、地域社会に積極的に貢献できる。
- ・ 医療薬学・臨床薬学の関わるさまざまな領域で指導的立場に立って地域社会に貢献できる。

教育課程編成・実施の方針 CP（カリキュラム・ポリシー）

①全体の方針

医療・健康・環境やその基礎となる科学に強い関心をもち、高い問題提起能力及び問題解決能力を修得し、研究者・教育者あるいは薬剤師など医療薬学・臨床薬学の関わるさまざまな領域で指導的立場に立って社会に貢献しようという意欲を有する人材を育成するため、主に先導的薬剤師を養成する「臨床薬学コース」及び主に先導的医薬品開発研究者や薬学系教員を養成する「医療薬科学コース」の2コース制を導入し、各々の人材養成目標に対応するカリキュラムを提供する。さらに、“地域社会に開かれた大学院”として、社会人に門戸を開き、薬剤師の資質向上を目指した生涯教育を実施する。

②教育課程編成の方針（「修得すべき知識・能力」への対応）

1. 「高度な専門的知識・技能及び研究力」

社会が求める実践的な高度専門職業人の養成ならびに各々の人材目標に対応するため、2コース制を導入し、生命倫理学、論文作成スキル、博士論文研究などの両コースに関係のあるコース共通科目及びコース独自のコース科目（講義、演習、実習）を提供する。さらに、「臨床薬学コース」には社会が求める即戦力としての先導的薬剤師養成を目的として、病院または薬局実習のいずれかを実施する。

2. 「学際的領域を理解できる深奥な教養力」

専門分野にとらわれない分野横断的な学修ができるカリキュラムを実施し、常に未知の分野の研究にも、果敢に挑戦できる素地を形成する。

3. 「グローバルな視野と行動力」

自らの研究の成果と意義を国際的な水準で議論し、必要に応じて、自らが国際共同研究の展開に寄与できる能力を養うための科目を提供する。

4. 「地域社会を牽引するリーダー力」

自らの研究の成果と、人や自然や社会との共生のために、強い責任感と高い倫理性をもって、自らの研究を深化させていく力を育てる。さらに、“地域社会に開かれた大学院”として、社会人に門戸を開き、薬剤師の資質向上を目指した生涯教育を実施する。

③教育課程における教育・学習方法に関する方針

講義・演習においては、基本的知識を丁寧に説明し、発展的な内容については研究の背景を説明することで知的好奇心と学修意欲を高める。さらに、関連する内容についての文献等を読み自ら学ぶことで基礎的知識・専門的知識・基礎的な方法論を修得することが可能となる。「医療薬学論文研究」では、科学英語プレゼンテーション能力の向上及び科学英語論文の書き方の理解を目的とし、科学英語スピーキング、効果的なスライド作製法、プレゼンテーション技術について学修する。「医療総合演習」と「医療実践演習」では、自ら文献を探し理解しその内容を発表すること、或いは、自らの研究成果について発表することで知識を活用する研究を遂行する基礎となる思考力を涵養する。「医療特別実験」では研究手法などについて指導を受け自ら研究を実践することで、研究を遂行する能力を修得することが可能となる。

④学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価する。また、学位論文については、学位論文審査基準を明示し、その基準に基づき適切に評価する。

全ての開講科目について、それぞれの学修目標の到達度を適正に評価するための方法及び基準を定め、これをシラバスに明記して学生に周知する。学修成果は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から「評価方法・基準」により評価する。

入学者受入れの方針 AP（アドミッション・ポリシー）

◆求める学生像

本教育部は「創薬・生命薬科学専攻」及び「医療薬学専攻」からなり、学士課程教育で培われた基礎薬科学、生命科学、医療系薬学及び衛生・社会系薬学の素養を基盤にして、各専門分野で自立し、かつ指導性を発揮できる、いわゆる高度な薬の専門家及び生命科学者の育成を目指している。本教育部「医療薬学専攻」では、臨床の現場で薬の本質を深く理解した医療の担い手として医薬品の適正使用に貢献できる高度な指導的臨床薬剤師の育成、疾病の予防及び治療に貢献する臨床研究者の育成を目標としている。

薬学教育部の理念・ミッションに沿った教育・研究を行い、各分野における基盤的研究及び最先端の研究を通して薬学及び生命科学の将来を担う高資質な人材を育成するため、本専攻では次のような学生を求める。

1. 深い人間愛と国際性を涵養できる学生
2. 科学的探求心や知的好奇心が旺盛な学生
3. 多様な社会のニーズに即応できる、柔軟性豊かな学生
4. 自らの将来に対するビジョンと信念を有する学生
5. 問題提起能力及び問題解決能力に優れる学生
6. 医療・健康・環境やその基礎となる科学に強い関心を持ち、研究者・教育者あるいは薬剤師など医療薬学・臨床薬学の関わるさまざまな領域で指導的立場に立って社会に貢献しようという意欲を有する学生を求める。

◆入学者選抜の基本方針

入学者選抜においては、以下のような評価方法を用いている。各試験における評価方法等の詳細については、募集要項に明記している。

- ・ 専門知識を評価するための口述試験
- ・ 英語能力を評価するための筆記試験
- ・ 面接